

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第714号 平成26年4月3日

読書ゼロ40%

「今時の大学生は本を読まなくなった」という話を聞かされても今更驚きはしませんが、それにしても1日の中で全く本を読まないという「読書ゼロ」の大学生が4割を超えたというニュース（2月27日付読売新聞から）には、驚くというより、ここまで来たかと慨嘆する思いです。

「読書ゼロ」4割というのは、全国大学生生活協同組合連合会（大学生協連）が昨年の10月から11月にかけて行った全国30の大学の学生に対して行った生活実態調査の結果から明らかになったものです。

この生活実態調査は、大学生に対して生活費等の経済状態や留学経験の有無、勉強時間・読書時間、政治に対する関心等について尋ねており、その中で、勉強時間・読書時間について、大学生協連では次のように分析しています。

まず、勉強時間についてみると、

- 授業時間を除く「大学の予習・復習・論文など」に1日50.2分充てており、前年と比較すると1日11分増加している。1日の勉強時間を学部別にみると文系34.1分、理系60.1分、医歯薬系73.1分となっている。
- 大学の勉強以外の「就職に関することや関心事」の勉強時間は、1日23.4分で、昨年と比較すると5.3分増加している。これを学部別にみると文系23.4分、理系18.0分、医歯薬系19.8分となっている。

次に、読書時間についてみると、

- 1日の読書時間は平均26.9分となっており、同じ方法で調査している04年以降最も短い。また、全く本を読まない学生は40.5%となっており、調査以来初めて4割を超えた。1日の読書時間を学部別にみると、文系32分、理系24.2分、医歯薬系18.7分となっている。
- 男女を比較すると、04年以降男子の平均読書時間は28分～35分の間を上下しているが、女子は04年の31.6分以降緩やかに減少が続いており、13年は24.3分となっている。
- 1ヶ月の「書籍費」は、04年と比較して自宅生では490円、下宿生では830円減少している。

以上が大学生協連の行った分析結果ですが、こうした大学生の生活実態について

どのような感想を持たれたでしょうか。

まず、勉強についてみると、学生ですから大学での勉強が中心となっているのは当然ですが、それにしても、自宅での予習・復習を含めた勉強時間の少なさに驚きます。特に、文系の学生の自宅での勉強時間が34.1分というのは、ちょっと信じられません。

仕送りが減っているという事情等から、大学生も生活が大変で、恐らくアルバイトに多くの時間を割いているのだと思います。

大学生の皆さんに、「大学生の本分とは」等と試してみても詮無い事だと思っています。しかし、自ら積極的に学ぼうとせずアルバイトに明け暮れているようでは、「名ばかり大学生」の汚名を返上する事は難しいでしょう。

大学生協連では、「スマートフォンの普及で情報が気軽に得られるようになり、娯楽や教養としての読書の優先順位が下がっている。書籍費は節約の対象にもなっている。」と述べています（2月27日付読売新聞から）。

書籍費が節約の対象になっているというのは、経済的な負担を考えれば仕方ないと思いますが、そうであればこそ大学の図書館や公設の図書館を積極的に活用して欲しいと思っています。

また、大学生協連がいうように、「スマートフォンの普及で情報が気軽に得られるようになった」事は事実です。私も、インターネットを通じて様々な情報を収集しており、インターネットを使えば居ながらにして自分の世界が広がって行くような感じがしています。

ただ、そうした感覚には大きな落とし穴がある事を、私達は認識しておく必要があります。

北海道大学農学部の長谷川英祐准教授（進化生物学）は、「ネットは一見、みんなに開かれているように見えますが、自分が行こうと思ったサイト以外は存在することすら認識しにくいものです。検索エンジンですらりと関係サイトが並んでも、自分の気に入らなそうな所には行かなければいいだけです。したがってネットは趣味や嗜好を同じくする人間に限られたコミュニケーションを促し、そういう場では、その嗜好を反映したリンクが張られますから、ますます特定の嗜好を持った集団ができやすいのです。」と述べると共に、「ネット空間には、狭い範囲の趣味や嗜好を同じくする人々の無数の集団ができ、相互にはほとんどコミュニケーションがないという状況が生じる」と指摘しています（同氏著「働くアリの幸せを」から）。

私達は、ネットを通じて広く情報を得ていると思っていますが、もしかしたらこれは重大な勘違いかも知れません。そうした勘違いから身を守るためにも、出来るだけ多くの本と出会い、読書する事が必要だと思っています。（塾頭：吉田 洋一）